



令和5年4月28日

かみせや

横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

5月号

上瀬谷小学校教育目標

学び合う子

認め合う子

鍛え合う子

家庭学習（自学）の取組

校長 小林 京子

自分の子どもの頃の宿題といえば何を思い出すでしょうか。漢字の書き取り10回ずつ、計算プリント、ドリルでしょうか。「宿題やったの？」は、どの家庭からも合言葉のように聞こえてきました。私自身も、友達との遊び時間が優先で、「帰ってきてからやる」と言いながら、自転車に乗って飛び出していくような子どもでしたから、宿題をやるのは、夕飯の直前かその後で疲れた目をこすりながらやったように記憶しています。遅くなった自分が悪いのを棚に上げて「この漢字はもう書けるのに、なぜ10回も書く必要があるのかな。」などと子ども心に思ったものでした。しかし、このやらされ感のある宿題では、大した学習習慣が身に付かなかった私は、中学校や高校の学習には苦勞しました。急に難しくなった学習に追いつくためには、宿題ではなく自分のわからないことを自分で補う必要があったのですが、その学習の方法すらわかりませんでした。

さて、今の子どもたちの未来は、予測困難な10年と言われていています。コロナ禍において、急速に時代が変化したのも事実ですが、実はコロナ禍前から、「大きな変化のある時代」がやってくることは言われていました。AIにとって替わられる技術ではないものを見つけていかなければならないのです。つまり、我々大人の小学生の時の原体験だけで、ものを語っては、今の子どもたちに必要な力は身に付けられないと考えなければなりません。

具体的には、計算の技術は電卓に任せるにしてもその原理を知ることが、論理的な思考力を身に付けることにつながり、自分が興味をもって知りたいと思うことを見つけ調べることや自分の感じたことを表現することなどは、判断力や表現力を身に付けることにつながると、子どもの学習を支える大人が知っていなければなりません。小学生の時に家庭の学習で、身に付けたいこととしては、少しの時間でも「自分の学びを見つめる時間」「続けることによる積み重ねの効果、喜び」を感じさせることだと考えています。不易なものもあります。いくらタブレット等ICTの活用で効果的なものが出てきても、自分を表現するための手書きの文字や言葉などは、「自分の分身」として身に付けていきたいと考えます。

少し難しい話になったかもしれませんが、こうしたことから上瀬谷小学校の宿題は「自学」と呼び、自分の身に付けたいことを追究したり一日の学習をふり返ったり、練習が必要なものを補ったりする時間にできたらと考えています。発達段階の差はありますが、入学したての1年生以外、どの学年でも同じ方針ですので、本校在学のきょうだいには、共通ワード「自学」を合言葉にして、ノートチェックをお願いできればと思います。学習習慣をつけるため、ご理解頂き、また、子どものやる気をより高める意味も込めて、今後とも温かい励ましをお願いいたします。

新学期がスタートし、教室を回りながら、子どもたちの生き生きとした学習の様子が見られることを嬉しく感じています。大型連休に入ります。慣れない環境での1か月に子どもたちも見えない疲れがあると思いますので、ゆっくり心身を休めてください。